

令和4年度

事業報告書

【重点項目】

- 1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする
- 2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる
- 3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

社会福祉法人おおぎだ

目 次

令和4年度社会福祉法人おおぎだ事業報告

事務局.....p1

各事業所別事業報告

特別養護老人ホームローズヒル(従来型・ユニット型) p5

短期入所生活介護(従来型・ユニット型) p6

茂呂デイサービスセンター P7

美茂呂デイサービスセンター p8

ケアハウス菜の花 p9

茂呂ヘルプサービスセンター p10

茂呂居宅介護支援事業所 p11

厨房部門 p12

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

① 在宅と入所部門が連携し、デイサービスとローズヒルを合わせて20年間利用していた方を看取ることができました。

② 対面での面会が困難な中、ICT(情報通信技術)を活用し面会方法の選択肢の一つとして活用することができました。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

① クラスターなどの要因で、部署により有給休暇の取得状況にばらつきが出てしまいましたが、部署を越えての応援を円滑に行うことができました。

② 8月7日に20周年記念を実施しました。看取りを実施した事例や20年勤続表彰を受けた職員が振り返りを発表しました。

③ 介護記録の電子化のため、Wi-Fi環境の整備を行いました。介護記録について、紙の記録から電子記録に移行できるようにプロジェクトを立ち上げ対応しています。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

① クラスターの発生時に、感染対策本部を立ち上げることで、日々変わる状況に対応することができました。

② 臨時での安全衛生委員会を10回開催し、感染に関わる様々な課題に対応することができました。

2 理事会・評議員会

(1) 理事会開催 定例理事会 (5月28日、10月31日、3月30日)

(2) 評議員会開催 定時評議員会 (6月19日)

3 施設運営管理

(1) 記録の電子化等

① Wi-Fi環境設備工事(前年度未実施のユニット型)

② 記録ソフトの購入(前年度未実施の特養)及び、iPad、PCの購入

(2) 特養 脱衣所の改修

(3) 固定資産関係

① Wi-Fi環境設備工事、タブレット記録システム等の購入

② 温冷配膳車 2台更新

③ クラスター対策として物品の購入

④ 伊勢崎市補助金事業 オムツの購入

(4) 運営会議・コスト 4回開催(6月、8月、11月、2月)

事業計画・予算、事業報告・決算報告等、経営状況、月次報告、コスト削減等

(5) 法令管理体制委員会 3回開催(7月、11月、2月)

(6) 月次報告

(7) 管理者会議 49 回開催

職員処遇、求人関係、規程の改正、理事会・評議員会開催準備、制度の対応、予算関係、研修関係

(8) 社会福祉法人の一般監査の実施 3/7 (伊勢崎市長寿社会部指導監査課) 3名

4 人事・組織管理・人材育成

(1) 令和5年4月1日 (135 人) 現在の職員数

部 署 職 名	特 養 (短 期含む)		ケアハウ ス		訪 問 介 護		茂 呂 デ イ サ ー ビ ス		美 茂 呂 デ イ サ ー ビ ス		居 宅 介 護 支 援 事 業	
	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤
施設長 (管理者)	1 (統括 1)		(1)		(1)		(統括 1)				1	
副施設長		1										
医師		(1)										
生活相談員	2		1				1		1			
サービス提供責任者					1	2						
介護職員	56	20	1		1		2	6	2	4		
看護職員	7	2					1	1	1	1		
訪問介護員						4						
介護支援専門員	2										2	
機能訓練指導員		1										
管理栄養士	1											
事務員	3	4										
合 計 (135 人)	72	28	2		2	6	5	7	5	5	3	

参考

令和3年4月 (136人)	73	26	2		1	8	5	8	4	6	3	
令和2年4月 (127人)	65	28	2		1	8	5	6	6	3	3	
令和元年4月 (121人)	66	23	2		1	6	7	4	5	4	3	

注:()は総数に含まれない。

(2) 入・退職状況

区 分	職 員	専 門 職 準 職	一 般 準 職 員	嘱 託	合 計
入職者	6 (11)	0 (0)	3 (8)	0	9 (19)人
退職者	2 (7)	0 (0)	7 (8)	0	9 (15)人

注:()は昨年度実績

(3) 評価、処遇調査、個人面談実施

(4) 特養では感染発生時、休職時の対応としてエリア同士での応援体制を行う。

5 自己研修 各部署にて報告。

6 防災対策

- (1) 防災委員会 2 回開催(安全衛生委員会内)、研修会 2 回開催
- (2) 消防訓練(昼想定)・水害訓練 9 月実施
消防訓練(夜想定)・防犯訓練 3 月実施
- (3) 建築物、建物の点検(自主点検)実施 9 月、3 月
- (4) 伊勢崎市消防署立ち入り検査実施 7/14
- (5) 防火管理者取得講習 9/14、15

7 施設・設備維持管理

- (1) 空調・ボイラー設備点検 6 月、12 月
- (2) 全館定期清掃 10 月
- (3) 受水槽・水質検査点検 5 月
- (4) 厨房害虫調査 毎月実施

8 安全衛生

- (1) 感染対策・事故防止委員会開催 各事業所にて報告。
- (2) 安全衛生委員会 12 回開催、臨時 10 回(新型コロナウイルス感染防止関係)
職場巡視 10 回実施、嘱託医との話し合い 11 回開催
- (3) 浴槽ろ過装置点検実施 9 月
- (4) 浴槽水質検査実施 8 月
- (5) 職員健康診断実施 4 月(夜勤者)、10 月全職員
- (6) インフルエンザ予防接種実施 10 月
- (7) ストレスチェック実施 10 月
- (8) 腰痛予防アンケート実施 10 月、3 月(特養)
- (9) 新型コロナワクチン接種(入所者・職員) 4 回目 215 名 5 回目 209 名
- (10) 感染対策本部設置 ・8/10~9/6 ・9/18~9/21 ・12/11~12/13 ・1/24~2/2
陽性者(入所者 29 名 職員 29 名)

9 サービスの向上

- (1) 連携会議 12 回開催
利用空き情報、事業所間の情報交換と業務改善提案、地域や家族の情報交換
- (2) ISP(生きがいサポートプロジェクト)会議の実施
 - ① 令和4年度の振り返り、チーム作りについて
施設チーム 12/22 在宅チーム 12/27
 - ② 意見交換会 2回開催
- (3) 苦情改善委員会開催 9 月、3 月(研修会)
苦情受付 6 件、皆様の声(意見箱) 0 件
***詳細は正面玄関にて公開**

10 地域福祉関係

- (1) 入所家族に関する事項
ローズヒル・短期入所者への面会状況
*令和 2 年度以降は、面会禁止の為、各事業所にて報告。
- (2) ボランティア状況

- ① 意見交換会と感謝会 中止
- ② 慰問等の受け入れ中止
- ③ 感謝状授与対象者なし

*ボランティア受け入れ状況は、各事業所にて報告。

(3) 広報委員会 12 回開催

- ① おおぎだより 29 号発行
- ② ホームページの更新 随時

(4) 地域への広報活動

- ① ミニデイ支援中止
- ② チャレンジウィーク・インターシップ
伊勢崎市立第四中学校 2名 群馬県立伊勢崎清明高等学校 2名
- ③ 実習生の受け入れ
群馬社会福祉専門学校 1名 ・東京福祉大学 1名
共愛学園前橋国際大学短期大学部 1名(栄養科)
- ④ 介護体験等の受入中止
- ⑤ 伊勢崎市公園緑地課主催「オープンガーデン」5月14日・15日開催
- ⑥ 「知ってもらおう介護の仕事」は訪問中止の為資料のみ届ける。
- ⑦ 鯉のぼり掲揚(期間4月28日～5月18日)
- ⑧ フードバンク活動支援(とまり木の会)へ非常食の寄付(9月、12月)

11 福利厚生

(1) 親睦会 補助金支給 1 人 約 6,000 円

- ① クリスマスケーキ配布 (129 人)
- ② 各部署で親睦を図る費用(1 人 1,000 円) (131 人)

(2) 10、20 年表彰・アイデア表彰・職員紹介

年 度	10.20 年表彰受賞者	アイデア提案	職員紹介者
令和 2 年度	4 人(デイ3、訪問1)	2 人(特養2)	2 人(特養1、デイ1)
令和 3 年度	6 人(特養4、居宅1、事務1)	2 人(特養2)	3 人(特養2、デイ1)
<u>令和 4 年度</u>	<u>10年5名(特養2、デイ2、訪問1)</u> <u>20年5名(事務2、特養2、デイ1)</u>	3 人(特養3)	0 人

注:()は所属事業所

(3) 20周年式典開催 8/7 (参加者 32 名)

- ① 表彰式 10 年表彰、20 年表彰、アイデア表彰
- ② 式典 「最期まで看取る」「利用者からの一言」
記念品 エコバック ISP 楽団の演奏

特別養護老人ホームローズヒル（従来型・ユニット型）

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ①新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、駄菓子屋、かき氷パーティー、おやつ作り、出前ランチレクなど、各丁目でレクエーションを行った。また、8月～9月にかけてのクラスター発生で夏祭りが出来なかったエリアは、秋祭りを開催し、利用者の明るい笑顔がみられた。
- ②妙義エリアでは看取り期に、自宅へ一時帰宅するケアの提供、感染予防対策の中でも個室でご家族と過ごせる環境を提供し、皆で気持ちを合わせて最後まで看取りケアを実践する事が出来た。看取り期の利用者にとって「その人らしい看取りとは何か」について、人生会議で検討し、実践できるようになってきた。

看取り実績 7件 人生会議 7件

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ①赤城エリアでは上期に引き続き、夜間の良質な睡眠確保のプロジェクトの一環として高齢者の睡眠について学んだ。昼間は日光浴を取り入れる、しっかり体を動かす体操を行う事に力を入れた。また、夜間の睡眠導入のため、夕方から睡眠を促す音楽を流した。実践の結果、職員から「利用者がよく寝ている」という意見がある。他エリアへ普及が今後の課題。
- 榛名エリアでは、身体拘束についてのアンケートを実施し、不適切ケアに注意していくことが利用者の尊厳を守ることに繋がると学んだ。また、尊厳を守るとはどのようなケアなのか、各自が考えながら仕事をする事を目標とした。

②ユニットリーダー実地研修受講 4名受講

介護福祉士 6名合格 介護支援専門員 2名合格

医療的ケア教員講習会修了者 2名

特定行為業務従事者 3名

③有給取得実績

838.5日/88人（有休取得日数/職員数）平均 9.5日（R4年上期4.8日）

エリア同士の協力により、有給取得に繋げることが出来た。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

新型コロナウイルス感染者 入所者 29名 特養職員 25名

- ①ゾーニングやガウンテクニックを行い、介護を行った。クラスターは1度発生したが、その後の新型コロナウイルス陽性者1名が発生した際は対策を行い、感染拡大することなく、施設内で療養期間を終了できた。また、ゾーニングを繰り返すことで、感染予防対策の技術・判断が向上し、特養でのベッド平均稼働率95.68%に繋げることができた。

ベッド稼働率(短期と合わせ) 従来型 96.3% ユニット型 94.3%

介護職員等ベースアップ等支援加算 1.6%を10月から算定。

ガラス越し面会 368件 * 面会制限は上期に引き続き行われた。

平均介護度 従来型 4.07 ユニット型 4.07 (R5年3月末現在)

短期入所生活介護(従来型・ユニット型)

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

利用者の居宅における生活と、利用中の生活が出来る限り連続したものになるよう情報収集に努め、支援する事ができている。

(例) ベッド柵の種類や位置、ベッドの高さ等、自宅の環境に近づける事で、利用者が安心して利用できるよう支援できている。また、自宅での生活も考慮し、排泄環境の提案をするなどし、本人・家族・介護支援専門員と連携を図ることができた。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

(3) 感染予防や災害への強化を図り安定した経営を継続する

- ① 妙義・榛名エリアで新型コロナウイルスクラスター発生(8/10～9/6)の為、8/19～ショートステイ受け入れ全面中止とし、9月中旬から受け入れを再開する。
- ② ショートステイ受け入れに際し、感染予防チェックリストを活用、本人・同居家族の体調を確認している。
- ③ 新型コロナウイルスを持ち込まないよう、入所前に抗原検査を実施している。入所前に陽性が確認された利用者はいない。
- ④ 新規利用者 31名 (令和2年度 23名 令和3年度 41名)
- ⑤ ベッド稼働率(特養と合計) 従来型 96.3% ユニット型 94.3%
- ⑥ 介護職員等ベースアップ等支援加算 1.6%を10月から算定。

2 会議、行事等については特別養護老人ホームローズヒルに同じ。

茂呂デイサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ①利用者のニーズに合わせ、午後からの利用や、午後入浴(毎日)の実施ができた。
- ②要支援者より、要介護者の受け入れに重点をおいた。美茂呂デイからの利用者を受けつぎ(1名)、茂呂デイからショート・ローズヒルへつなげる事ができた(利用者7名)。
- ③DVDを活用しての口腔体操や音楽体操、転倒防止の運動を毎日実施できた。個別に歩行訓練や日常動作維持のリハビリを実施できた。
- ④作品集として、利用者のデイでの様子を写真に撮ってアルバムにし、利用者に渡すことができ、家族にも利用者にも好評だった。
- ⑤下期には、レクリエーション週間を設け、感染対策をしながら、集団レクリエーションを行う事ができた。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ①記録の電子化(連絡帳)を行った。また、試行錯誤だが、今後も電子化できる書類は行っていく。
- ②職場の整理整頓に関しては、書類の廃棄が行えた。
- ③職員一人一人が、おおぎだの重点項目に基づき個人目標を立て、評価できた。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ①1日平均25名の目標に対して、22.4名だった。
新規利用者15名(茂呂居宅5名)。お試し利用者22名。担当者会議68回。
介護職員等ベースアップ等支援加算1.1%を10月から算定。

年間利用者人数

介護度 \ 年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年比
要支援 1・2	378	192	134	70%
要介護 1～5	7,187	7,072	6,815	96%
計	7,565	7,264	6,949	96%

利用者がコロナ陽性になったため、7月に営業一部休業した。

- ②居宅介護支援事業所に、利用者の様子の報告・連絡相談を継続している。毎月、茂呂デイ通信・空き情報を作成・配布してPRに努めた。
- ③水害・防災訓練(9月)・火災訓練(3月)。
- ④4回目(8月)・5回目(11月)のコロナワクチンの巡回接種をデイフロアで行った。(延べ利用53名、職員19名接種)

2 行事・その他

- ①コロナウイルス感染拡大の影響で、レクリエーションが思うように行えなかった。おやつバイキング・選べるドリンク・出前ランチ等を行った。感染対策をしながら、レクリエーションを再開できた。
- ②職員研修:全体研修、個人目標設定、送迎、虐待防止、上期振り返り、通所介護計画書の書き方、認知症の人の見方・考え方、記録の電子化、アンガーマネジメント、事業計画の検証と評価・事業計画、リスクマネジメント(事故防止)

美茂呂デイサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ①機能訓練メニューを利用者に分かりやすく説明し、運動効果などを「みもろだより」で紹介した。要支援の方は個別に筋力トレーニングを行い、脳の活性化を図るトレーニングも加えた。体力測定(年2回)・握力測定(年4回)を実施し、成果がみられた。
- ②季節感が感じられるフロア飾りや、個人制作(ストラップ等)が利用者に好評だった。
- ③要支援者に向けて、水曜日のみ、午前・午後の半日利用コースを設けて、筋力・バランス能力の維持向上の支援、個々の趣向を聞きやりたい事ができる支援を行った。(5名)
- ④美茂呂デイから茂呂デイへと利用者をつなげることができた。(1名)
ローズヒルショート利用者1名。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ①記録の電子化(連絡帳)が出来、記録作業が早く行えるようになった。
- ②業務のチェック&アクションを学び、階層別研修の必要性がわかった。
- ③業務分担の見直しはできなかった。(来期は、業務改善を意識して職務につけるようにする)
- ④職員一人一人が、おおぎだの重点項目に基づき個人目標を立て、評価できた。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ①1日平均18名の目標に対して、13名。(昨年14名)
新規利用者25名(茂呂居宅16名)。お試し利用者35名。担当者会議50件。
介護職員等ベースアップ等支援加算1.1%10月から算定。

年間利用者人数

介護度 \ 年度	R2年度	R3年度	R4年度	前年比
要支援 1・2	858	879	733	83%
要介護 1～5	3,566	3,575	3,259	91%
計	4,424	4,454	3,992	90%

- ②利用者がコロナ陽性者になり、7月に営業縮小した。また、感染拡大時期、利用を控える方がいた。家族が陽性者になったため、利用できない方がいた。
- ③防災訓練2回実施(9月・3月)。
- ④4回目(8月)・5回目(11月)のコロナワクチンの巡回接種をデイフロアで行った。(延べ利用者29名、職員15名接種)

2 行事・その他

- (1)ベランダの菜園では、ジャガイモ等の栽培を1年に2回楽しんだ。
- (2)外出行事は出来なかったが、下期には、ボランティアを受け入れ、感染対策をしながら、集団レクリエーション・おやつ作りやおやつバイキング、出前ランチなど行った。
- (3)季節が感じられるような創作活動では、巨大貼り絵(七夕・クリスマス・ひなまつり)に全利用者が参加した。
- (4)職員研修:全体研修、個人目標設定、チェック&アクション、虐待防止、上期振り返り認知症の人の見方・感じ方、記録の電子化、人間関係を良くするために、アンガーマネジメント、年度の振り返りと事業計画作成、リスクマネジメント(事故防止)

ケアハウス菜の花

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① コロナ禍であったが、感染対策を行いオープンガーデンを開催することができた。
5/14 37名、5/15 55名（うち伊勢崎市外から15名）
- ② 「北千木作品展」「特別支援学校の運動会・きりのこまつり」が中止となり参加出来なかった。
- ③ 伊勢崎市主催の行事に参加することは出来なかった。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- ① 月1回居室を訪問し、お困りごとと不安等を聞いている。引き続き安全に過ごせるように訪問していきます。家族面談会は中止となった。
- ② 他部署との連携 菜の花入居者定員 15名
3/31 現在利用者

部署	年度	令和3年度	令和4年度
茂呂居宅介護支援事業所		9名	11名
茂呂デイサービスセンター		7名	5名
<u>美茂呂デイサービスセンター</u>		<u>0名</u>	<u>3名</u>

- ③ 目標 毎月15名 年間180名 → 実績 年間175名 稼働率97.2%でした。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① マニュアルの整備を引き続き行う。
- ② 電気製品の点検、緊急時連絡ボタンは年2回消防自主点検で実施。
- ③ 職員・入居者で9/28 消防・水害訓練。3/15 防犯・消防訓練に参加。
消防設備点検を年2回居室内も業者により実施。
- ④ 5/27 伊勢崎市開催の結核検診に7名受診。
- ⑤ 介護職員処遇改善加算を4月から算定。

2 行事・研修・委員会

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 4月 粕川沿いの桜見学 | 5月 結核検診、オープンガーデン実施 |
| 6月 家族面談会中止 | 7月 お花見中止、七夕実施 |
| 8月 納涼祭中止 | |
| 9月 敬老会(出前・ビンゴゲーム)、消防(昼想定)・水害訓練 | |
| 10月 群馬県立伊勢崎特別支援学校運動会中止、 | 11月 北千木作品展中止 |
| 12月 クリスマス会(お弁当・ビンゴゲーム) | <u>1月初詣</u> |
| 2月 群馬県立伊勢崎特別支援学校祭り中止 | <u>3月 誕生会(お弁当・スライドショー)</u> |
| | 消防(夜想定)・防犯訓練 |

- | | | | |
|-------------|------|------------|------|
| (1) 感染症委員会 | (4回) | 研修会 | (2回) |
| (2) 事故防止委員会 | (4回) | 研修会 | (2回) |
| (3) 身体拘束委員会 | (4回) | 研修会 | (2回) |
| (4) 施設内研修会 | (1回) | | |
| (5) 施設外研修会 | (1回) | *動画・Webで視聴 | |

茂呂ヘルプサービスセンター

1 おおぎだの重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

上期では住み慣れた地域で自宅での生活を実現するための、身体介護を希望のニーズに答えることができた。その他では、薬の管理やゴミの持ち帰りなどの要望を取り入れ、利用者や家族の生活での不安を取り除き、支えることができた。

(2) プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

① 下期にはヘルパー会議を再開し、利用者ニーズの統一と、派遣時の注意点や手順等の再確認を行うことができた。

② 2名のヘルパーを採用することができ、新人研修チェック表を活用し、同行を行い統一したサービスが行えるように指導を行った。

③ 義務化になったアルコールチェックを電話にて実施し安全な運営を行う事ができた。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

感染対策研修やBCP研修の開催を通し、知識や技術の習得を通して、新型コロナ感染者や災害発生時の対応に備えることができた。

① 利用時間

サービス提供時間 月平均 実績 = 567 時間 (目標 = 650 時間以上)

年 度	月平均利用時間
令和 2 年度(2020)	809 時間
令和 3 年度(2021)	685 時間

目標月平均 650 時間に対し、567 時間と目標には届かず、上期の身体介護ニーズの方の、入所や、入院、サービス終了など多く、新規の利用はあるものの、生活援助利用者が多く、派遣時間は伸びない結果となる。

② 利用者数と介護度

合計 57 人(前年度 62 人)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
7 人	8 人	22 人	12 人	5 人	1 人	2 人

③ 新規利用 12 人<要支援 1 人、要介護 11 人> (前年度 26 人)

④ 時間追加希望 6 人 (前年度 4 人)

⑤ 介護職員等ベースアップ等支援加算 2.4%を 10 月から算定。

2 職員研修

(1)施設内会議・委員会・研修

① ヘルパー会議 2月より再開

② 感染対策委員会 1回 感染対策研修 1回

③ BCP研修 1回

④ 虐待防止研修 1回

(2)施設外研修

ケアプランデータ連携システム研修(オンライン)

茂呂居宅介護支援事業所

1 おおぎだ重点項目に基づき報告

(1) 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- ① 新型コロナ感染予防の為、地域のボランティアや民生委員の方に対して、施設見学は行えなかったが、ミニデイや市のサービス利用時など交流を持っており、利用者の紹介(2件)を頂く事ができた。
- ② 他部署との連携に関しては、連携会議を通して利用者の情報を共有する事ができた。美茂呂デイサービスの改善に対して会議に参加して意見交換や提案など行えた。
- ③ ミニデイの派遣はコロナ禍であったが、6月、7月2回行い、DVDの貸し出しなどで協力できた。

(2) プロ意識を持って主体的に働く職員を育てる

- ① 介護支援専門員更新研修は、コロナ禍の為Zoom研修(7/27~9/29 12回)と業務の両立が行えた。
- ② 動画等を活用してケアプランの変更等の対応や運営指導等の情報を得られ、ケアマネ個々の問題等においても取り組めた。
- ③ サービス事業所などサービス利用時の情報交換として専用のアプリ(MCS)を新たに用いて業務に活用できた。

(3) 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- ① 感染拡大防止にむけて、介護保険証の更新時は特例措置(同じ介護度で1年間延長)など用いて、またサービス事業所に感染者発生時などは、他のサービスに振り替えるなど対応を行えた。
- ② 施設でのコロナ感染対策の為災害時の必要なサービス継続的に提供できるよう業務にむけた計画書の策定、担当者への研修・訓練は行っていない。

2 サービス提供目標

(1) 目標利用者数

ケアマネジャー1人あたりの件数 38件(要支援14件(0.5換算)・要介護31件)
全体 要支援 43件 要介護 94件 (R5年3月末現在)

	要支援	要介護
令和2年(2020年)	36	85
令和3年(2021年)	39	94

※ 利用者件数(月単位 小数点以下四捨五入)

要介護は前年度の件数を確保でき、要支援は前年度の件数より上回る事ができた。

一人当たりの目標件数の38件は達成できている。また、R5年2月、3月は担当件数の限界(40件未満)を超えており、逡減制(基本報酬の減額)の導入となる。

(2) 加算取得

- ① 初回加算26件、入院時加算は9件取得。
- ② 特定事業所集中減算に対しては対象外を維持できた。
- ③ 利用者の家族から1件、家族・本人からの依頼10件、包括支援センター・病院からの紹介2件、職員からの紹介2件、他事業所から3件など新規利用に繋がった。

厨房部門

1 地域の多様なニーズに応じた特色ある施設にする

- (1) 行事食(月 1 回 全 12 回実施)、
- (2) 各部署からリクエストしたセレクト食(月 1 回 全 12 回実施)
- (3) 日本列島祭り紀行 (月 1 回 全 12 回実施)
- (4) 世界の食卓(月 1 回 全 11 回実施、12 月はクリスマスメニュー)
- (5) その他
 - ① 各部署の行事計画に沿ったサービスの提供
(お誕生日会、夏祭りなど)
 - ② 毎月 1 日の昼食はお赤飯提供
 - ③ 月に 1 回日曜日の昼食は特養にパン提供
 - ④ 毎週日曜日の昼食はケアハウスに様々な種類のパン提供
 - ⑤ 各部署のおやつ作りの材料を提供

2 プロ意識をもって主体的に働く職員を育てる

- (1) 定例事業
 - ① 給食サービス委員会(月 1 回、全 12 回)
 - ② 嗜好調査(11 月)
 - ③ 残食調査(毎食後)、評価・報告(6 月、9 月、12 月、3 月)
 - ④ 備蓄食品点検(9 月)
 - ⑤ 給食施設実施状況報告(12 月)
- (2) 日常事業
 - ① 栄養ケアマネジメントによる個々の栄養管理
(入所者の身体状況管理、喫食量の把握、嗜好調査、栄養ケア計画・評価など)
 - ② 栄養帳票・衛生帳票の管理
 - ③ 厨房職員への衛生指導(衛生勉強会 全 12 回等)

3 感染予防や災害への対応の強化を図り安定した経営を継続する

- (1) 安全衛生委員会にて研修会の実施
「食中毒と感染予防」(6 月)
- (2) グリーンハウスグループの研修に参加
 - ① 刺身衛生講習会(8 月 5 名)
 - ② 介護報酬改定(9 月 5 名)
 - ③ 栄養ケアマネジメント(3 月 5 名)
 - ④ 食品衛生責任者講習会(3 月 4 名)
 - ⑤ 日本食品標準成分表 2020 年版(八訂)(3 月 5 名)